



# NEWS

2007 No.196

7月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

## CO<sub>2</sub>問題で変わりだす自動車

# 「次世代自動車・燃料イニシアティブ」が示す方向 電気自動車とクリーンディーゼルを評価

「2050年 CO<sub>2</sub>半減」という目標が明確になり、

その中で新たな自動車発展のシナリオが示されています。

これまで「低公害車・クリーンカー」というと、実際に使ってみると不便で普及が進まない夢のクルマでした。しかし、地球温暖化は急激に進み、防止対策はまさに喫緊の課題。クリーンカーの普及を阻む壁だった技術課題も徐々に克服されています。

経済産業省が5月にまとめた「次世代自動車・燃料イニシアティブ」は、CO<sub>2</sub>排出半減の目標を見すえながら、2030年までの自動車が発展する姿を示しています。その特徴のひとつは、これまで燃料電池自動車一本に絞り込まれていたクリーンカー普及のシナリオに複数の選択肢ができたこと、そして「カーボンニュートラル」と位置づけられるバイオ燃料の利用など燃料面からの温暖化防止アプローチも加わりました。

2030年、50年といわれてもピンときませんが、2010年、15年という間近の展望も組み込まれています。それだけ対策は具体的に進むということで、イニシアティブの枠組とは別に、自動車メーカーは2015年までに「省エネ法」に基づく新燃費基準に沿って、燃費向上を果たす必要があります。15年度の燃費改善率は、乗用車で04年度実績に対し23.5%、小型バスで7.2%、小型トラックで12.6%となっています。

具体的な省エネ施策では、エンジンの改良、CVT化、低転がり抵抗タイヤの導入などとともに、燃費性能の優れたハイブリッド自動車、ディーゼル自動車の導入をあげています。

一方、イニシアティブでは、①バッテリー(=電気自動車)②水素・燃料電池③クリーンディーゼル自動車④バイオ燃料⑤省エネのためのITS活用一という5つの戦略を示しています。ITSの話は別の機会に回すとし

て、電気自動車とクリーンディーゼル自動車は、自動車メーカーの開発動向を踏まえ、2010年からの市販開始を見込んでいます。

電気自動車は、三菱自動車の「i-MiEV」、富士重工の「R1e」という軽自動車ベースの開発が進み、1回の充電で100

～130km走行できるコンパクトEVが市販直前の段階にあります。さらに電池性能が向上すれば、電気自動車ばかりでなくハイブリッド自動車も高性能化します。そして15年には充電可能なハイブリッド自動車「プラグインハイブリッド」の投入が見込まれます。

期待の星は、09年に実施が予定されている排ガス規制「ポスト新長期」をクリアしたクリーンディーゼル自動車です。ホンダ、日産、マツダ、スズキが市販予定か、その方向で検討を始めています。こう見ると、とくに乗用車の分野で2010年ごろからパワートレインのバリエーションが広がろうとしています。

一方、燃料電池自動車や水素電池自動車は技術のハードルが高く、販売は自動車メーカー主導の高額リースに留まるようです。バイオ燃料も安定供給や食料と競合しない製造技術の開発が課題になります。石油連盟

### CO<sub>2</sub> 50%削減に向けた運輸部門のプログラム

2010年 **バイオマス燃料 E3** (エタノール180万kℓ程度の利用)  
改良型電池搭載コムーターEV (1充電130km)  
高性能ハイブリッド自動車 (2007年に販売開始)  
**クリーンディーゼル乗用車** (ポスト新長期規制をクリア)

2015年 **新燃費基準** (乗用車で04年比23.5%向上)  
バイオマス燃料100円/ℓ (バイオマス・ニッポン)  
先進型電池搭載一般コムーターEV (1充電200km)  
**プラグインハイブリッド**



### 将来の達成目標



2030年 運輸部門の石油依存度80%  
運輸部門のエネルギー効率30%改善  
→「新国家エネルギー戦略」(06年5月)

2050年 **全世界でCO<sub>2</sub>半減=「美しい星50」** (07年5月)

は、バイオエタノールをETBEという化学合成物質に変えて混入したガソリン販売を首都圏で始めましたが、当面の目標であるガソリン消費量の3%をエタノール由来とするために必要な180万kℓ/年ものエタノールを安定確保する手段のめどが立っておらず、その検討が急がれます。これらを読み込むと、コンパクトEVとともに、CO<sub>2</sub>排出がガソリン車の25%減といわれるクリーンディーゼルの普及が進むのは、確実のようです。

現在、CO<sub>2</sub>排出削減は国の政策課題の中心に位置付けられました。自動車修理の面でも、CO<sub>2</sub>排出抑制につながるリサイクル部品の活用拡大を考えてみてはいかがでしょうか。NGP協同組合は、環境に優しい自動車整備のお手伝いをいたします。販促チラシ集の「お客様と華したい!」セットを使えば、お客様に環境整備を呼びかけることが可能です。



## オートサービスショー 先端整備機器に関心上向く 環境整備と安全強化は みんなの願い、商機も生まれる



- 1 アトムテックスが開発したオイルチェンジャー「クリーントップ」。コードレスタイプのため場所を選ばず、素早いオイル交換が可能
- 2 カーリペアからカーケアへ。デュボンと三共理化学は在庫支援の一環として、洗車ビジネスとしてポリッシングシステムを発表した
- 3 排ガス規制強化の一環として、オパシメータ(光透過式黒煙測定器)の整備事業者への導入も予測されている



- 4 点検基準と項目の見直しにより、足回り関連を中心とした大型車用機器の展示に注目が集まった
- 5 中古車商品化など、新たな内製化ビジネスを提案する出展者が目立った。付加価値を高める取り組みが今後求められている

整備機械工具業界最大のイベント「第31回オートサービスショー2007」(主催=日本自動車機械工具協会)が6月15～17日までの3日間、東京都江東区有明の東京ビッグサイトで開催されました。4月から大型車の脱輪事故防止のために点検基準が強化されるなど、環境や安全対策の整備で新しい動きが次々と起こる中で先端の整備機器に対する関心も高まり、前回に比べ約6500人多い7万6996人が来場、2年に1回開催されるショーの会場を熱心に見学していました。

今回のオートサービスショーのテーマは、「みんなの願い 環境整備と安全整備」、新

たな法規制や環境に対応した製品の展示を中心に144社が出展し、新規ビジネス提案や作業効率改善のための各種機器をプレゼンテーションしました。

環境整備の機器では、ディーゼル車の排ガス規制強化の一環として導入が進むオパシメータ(光透過式黒煙測定器)、VOC(揮発性有機化合物)規制に対応する低溶剤型塗料の展示が目立ちました。とくにオパシメータは、9月以降に各検査場への導入が予定されており、来場者は大きな関心を寄せていました。

また、自動車の電子化が進み、機械装置

としての点検・整備だけでは対応できなくなったこともあり、故障診断機を活用した整備の重要性を説明する出展者も多く見られました。

自動車整備業界は成熟市場と見られていますが、その一方で、燃費規制の強化や排ガス規制の強化で自動車の構造が変わりつつあります。さらに「交通事故死者ゼロ」を目指した安全対策の強化など、自動車整備に関する要望は高度化しています。もちろん顧客確保のための新ビジネス提案を含めて、ショーは整備事業者が新たに進む道を紹介するイベントとなりました。

# 日本ELVリサイクル機構、平成19年度全体総会開催 JAERAインストラクター制度で フロン、エアバッグの適正処理をサポート



日本ELVリサイクル機構（JAERA、酒井清行代表理事）は6月14日、東京・品川の品川プリンスホテルで、平成19年度全体総会を開催しました。平成18年度事業報告、平成19年度事業計画の審議・了承などとともに、平成19年度の活路開拓事業として、①情報システム化に取り組み、全国の会員間で情報の共有化を進める②JAERAインストラクター制度を導入し、自動車再資源化協力機構（自再協）の取り組みに協力することを決めました。

NGP協同組合のメンバーも、各地域のリサイクル協同組合代表や部品流通部会のコアメンバーとしてJAERA活動に協力しています。

とくに活路開拓事業で取り組むJAERAインストラクター制度は、自再協に代わってフロンガスとエアバッグの適正処理を進めるためのものです。加盟社の従業員は、自再協の講習を受けることで、指導員として認定されます。指導員はフロンガスの回収



活路開拓事業を説明するNGPの青木勝幸理事長。指導員では若手を育成して次世代の育成にもつなげる考えだ

とエアバッグの車上作動処理が適正に行われるように、地域のJAERAメンバーに対して技術指導を行っていきます。

情報システム化は、会員間で情報の共有化を進めることをねらったもので、第一弾として輸出エンジンの価格について、会員間で情報を共有することを検討しています。また、平成19年度事業計画では、会員に有益な情報を発信し、活発な情報交換を行な



3年目を向かえた自動車リサイクル法。解体業の立場では疑問や課題も多く、NGPもJAERAの活動に協力している

えるようにするため、ホームページを改良することも計画しています。さらにリサイクル月間にあわせて、リサイクル部品活用のキャンペーンも引き続き取り組むことにしました。

こうした活動を通じて、JAERAの加盟社が使用済自動車を適正に処理していることを社会に強くアピールし、この中でNGP組合員はコアメンバーとして業界を牽引していきます。

## NGPダイレクトでリサイクル部品の効率的な見積もり、発注環境を提案します



### IOIエコパートナーに開放1年、JA共済指定工場協力会にも拡大

NGP協同組合は、共有在庫情報公開システム「NGPダイレクト」を開発し、自動車リサイクル部品の利用を促進してもらうため、購入客のNGPへの発注環境を改善する提案を行っています。システムをセットアップすれば、事務所内のパソコンで在庫の「ある・なし」が確認でき、リサイクル部品を使用した修理見積もり提案を円滑に行うことができます。

NGPダイレクトは、日本車体整備事業協同組合連合会（丸山憲一会長）の青年部などの協力を得て一昨年スタートしました。現在、日車協連傘下の加盟事業者さんとトライアルを重ねているほか、大手車体整備事業者組織のBSサミット、あいおい損保の

整備業代理店組織・IOIエコパートナー、およびロータスの加盟メンバーにシステムを開放しています。

自動車リサイクル部品で修理する場合、リサイクルパーツ販売会社への在庫確認の問い合わせから始まり、見積もりや請求金額の確定まで、数日間かかりました。早く修理を終わらせたいとおお客様の要望に応えられず、ビジネスチャンスを逃していたこともありました。

NGPダイレクトを使いますと、NGP共有在庫のなかから必要な部品を直接検索でき、見積もり作成の時間短縮が可能になります。お客様への受け答えもスムーズとなり、戦略的にリサイクルパーツを使えます。

利用するには、IDの発行を受けることが必要ですが、BSサミットのメンバーでほぼ100%、ロータス、IOIエコパートナーの事業者に対してそれぞれ1割ほどにIDを発行しています。さらにリサイクル部品を修理利用で拡大したいという自動車メーカー向けにも400件発行していますし、現在、トライアル中の日車協連の事業者を含めると、ID発行はおおよそ1千件を超える規模に拡大しています。また、JA共済指定工場協力会に対しても現在申し込みを受付中です。

現在、NGPダイレクトを使いたいという引き合いは多方面から寄せられています。さらに、整備事業者の皆様に分かりやすく、使い勝手のよい仕組みとすることも検討しています。リサイクル部品を使った環境整備をエンドユーザーに積極的に売り込むためにNGPダイレクトを活用してください。お問い合わせは、NGP協同組合にて承っています。

## オートバックスセブンと提携 カーライフサポートストアを 適正処理でお手伝い



インターネットを利用した使用済自動車の引取業務



基本的には同じ都道府県のNGP引取店に引取依頼が発信されます。隣接エリアからも選ばれるようになります

NGP協同組合は、国内最大手カー用品チエー

ンのオートバックスセブンと使用済自動車の引取業務で提携し、契約を結びました。オートバックスは全国の店舗で車検・整備、車両販売、さらに車両買取も始め、「トータルカーライフサポートストア」としてお客様のあらゆるニーズに応える店舗作りを進めています。中古車購入端末を設置した「オートバックスカーズ」は全国に375店舗あり、こうしたビジネスの中で発生する使用済自動車を引き取り、適正処理を行います。

仕組みは「くるマック」の廃車買取と同じで、インターネットを通して行います。NGP組合員は、オートバックスの各店から発信された見積もり依頼に対し、残価(見積もり金額)を回答。金額で折り合いがつけば、引取依頼が返信メールで届きますので、オートバックス各店の担当者に連絡を入れ、引取日時の最終調整や抹消処理に関する打ち合わせをし、引取業務を行うこととなります。

どのNGP組合員に見積もりを依頼するかは、オートバックス各店の担当者に選択権がありません。店舗所在地の都道府県、または隣接都府県からNGP引取店を選び、メールを送ることになります。

また、引取業務終了後、完了報告と最終買取金額について、オートバックス各店と(株)NGPそれぞれに報告します。また、オートバックス各店へ引き取り証明書を送付すること、オートバックス各店から送付される抹消登録書類をもとに、事前に打ち合わせた抹消手続きを行うようにします。オートバックスは、同じ査定基準で車両買取ができる買取システム「スゴ買い」を導入するなど、お客様のニーズに応える店舗作りの一環で車両販売に力を入れているところで、車販業務の拡大に付随した使用済自動車の発生量増が見込めます。

## 青木理事長、宮地専務理事が「未来グループ」訪中団に参加 北京市担当局、解体関係者と有意義な懇談

NGP協同組合の青木勝幸理事長と宮地康弘専務理事が、「NGOひろしま未来グループ」の訪中団に参加、中国・北京市との国際交流を深めました。訪中団は6月25日から3泊4日の日程で、北京市商務局、中国首鋼国際製鉄所、中国科学技術協会を訪問しました。

北京市商務局では王衛平副局長と会話し、自動車リサイクル問題で懇談しました。午後からは中古車販売現場を見学する予定でしたが、商務局からの紹介で急遽、自動車解体を行っている北京天交廃棄汽車回収処理有限責任会社を見学することに変更し、同社の朱自立総経理から現場の状況について説明を受け、意見交換をしました。

北京市は300万台の自動車保有があり、昨年は新車・中古車併せて71万4000台(うち中古車32万2000台)の自動車販売があったそうです。自

家用車については「10年30万キロ」で廃車するようにする代替促進策が採られています。市内4カ所の中古車販売市場も北京天交廃棄汽車をはじめとした市内9カ所の自動車解体工場も市商務局の統括下にあるそうです。



北京市商務局の王副局長と懇談。北京市でも環境負荷を低減するための、自動車の適正処理が課題になっている

自動車リサイクル部品の利用は、法律整備を含め今後の課題ということでしたが、適正処理技術について強い関心を示していました。また、中国科学技術協会の楊谷副処長からも自動車リサイクルに関心を持っているという話がありました。NGP協同組合としては中国の事業者が使用済自動車の適正処理に取り組むための技術支援で交流を深め、将来のビジネスにつなげることができればよいと考えています。



北京天交廃棄汽車は、昨年はバスを2760台、セダンを3100台解体した。いずれも公用車だそうで、NGP(日本)の取り組みを学びたいと歓迎された



### 慶事

株式会社テラダパーツ(愛知県刈谷市)寺田博正代表取締役社長が、松島晃子さんとご結婚されました。6月16日に名古屋東急ホテルで披露宴が催されました。おめでとうございます。

### NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209  
http://www.ngp.gr.jp

### (株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201